第67回京都大学11月祭全学実行委員会（第3回）

2025年6月29日（日）

【注意事項】

- 注意1 本会議のレジュメは、参加者に配布しております。
- 注意2 本会議のミーティングのURLやレジュメ、議事録のパスワード(ある場合)を他者に共有する行為は行わないでください。
- 注意3 発言を希望する際には挙手をしてください。議長が発言者を指名するので、指名されてから発言してください。
- 注意4 発言時には、団体名あるいは団体名と、氏名を述べるようにしてください。議事録作成中は、発言者を団体名あるいは企画名、氏名で記録しますが、閉会後に議事録が共有される際には、委員長および全学実行委員会内の組織、全学学生自治会同学会内の組織等を除いては、アルファベットなどで置換します。
- 注意5 本会議の円滑な進行を妨害する行為が確認された場合、当該行為を行った者に対して、委員長が退場を命じることがあります。
- 注意6 本会議において、会議参加者に無断で録画・録音する行為は禁止されています。
- 注意7 議決・承認は、対面参加者は拍手で行います。
- 注意8 議決・承認後に離席者からの意見があれば、受け付けるものとしますが、その扱いについては個別に判断します。

（Google Meet参加者）

- 注意9 表示名は、「団体名_氏名」あるいは「企画名_氏名」としてください。個人の場合は氏名のみで構いません。
- 注意10 発言時以外は、マイクをミュートに設定してください。
- 注意11 議決・承認は、Google Meetの「挙手」機能を使用して行います。
- 注意12 議決・承認において、離席者が存在するために会議参加者の一部または全部からの応答が得られない場合には、応答がない者を除いて議決・承認を行います。ただし、議決・承認後に当該離席者からの意見があれば、受け付けるものとしますが、その扱いについては個別に判断します。
- 注意13 本会議は、本日21:00には閉会します。

【議事録】

提案1の「旧企業協賛規制の問題点について」と提案2の「全学実の透明化について」はAによって提起されたものである。

開会時刻 10:06

閉会時刻 13:00

委員長：少し予定開始時刻を過ぎてしまったが、準備が整ったようなので始める。全学実行委員長の竹川である。まず接続の確認を行う。オンライン参加者は音声がかかっているか。なにかリアクションを願いたい。確認ができたので、注意事項の確認を行う。
(注意事項読み上げ) 午前からの開催のため、議論が長引く場合は一度休憩を挟む予定である。

委員長：「第67回京都大学11月祭全学実行委員会への提案」のレジユメを確認してほしい。1. 議事(案)への意見等はあるか。

A：「旧企業協賛規制の問題点について」のレジユメを取り上げたい。また、「全学実行委員会の透明化への提案(2)」についての議論を求める。

委員長：確認だが、議事の順番の希望はあるか。

A：議長に一任する。

委員長：では、「11月祭における外部団体連携行為に関する規程」の後に扱う。異議等ある方はいるか。「11月祭における外部団体連携行為に関する規程」を扱う際に同時に「旧企業協賛規制の問題点について」を扱い、その議題の終了後、「全学実行委員会の透明化への提案(2)」を扱う。

ではまず、議事の(1)「11月祭における外部団体連携行為に関する規程」と「旧企業協賛規制の問題点について」を扱う。まずは11月祭事務局のレジユメ「11月祭における外部団体連携行為に関する規程」を取り上げる。

事務局：レジユメを確認してほしい。特に「2. 定義」の部分で昨年度、前回の提案から変更点があるため、背景とともに説明する。昨年度及び前回から変更があるため、確認いただきたい。(レジユメ読み上げ) まもなく企画登録の受付が始まる実務的都合から、部分的に承認されない場合は、やむを得ず原則としてこのような連携行為を認めない

ような決定を実務上取らざるを得ない可能性がある。

委員長：続いて、Aの提起した「旧企業協賛規制の問題点について」に関する説明があれば願いたい。

A：レジュメについて、提出趣旨を説明する。（レジュメ読み上げ）

委員長：以上2つのレジュメの提案内容、発言内容等について、なにか意見等ある方はいるか。

A：「旧企業協賛規制の問題点について」のレジュメは、これ自体を、決議をとって事項として扱うというよりかは、今回の事務局の提案があった規定についてある程度整理しているだけであり、本件について議決を取ってほしいという趣旨ではないことを改めて説明させていただきたい。

委員長：意図は理解した。実際の規制等に関する質問等があれば、事務局の提起した「11月祭における外部団体連携行為に関する規程」に対するものとなると思われる。

何かこのレジュメに書いてあることについて質問がある方はいるか。

A：内容が多岐に渡るので概ね一問一答形式で質問する。

日曜日の午前から全学実行委員会が実施されるということで、多くの京大生は起きていないのではないかと述べていた。前回の全学実行委員会では、企画相談会を実施するからそのまでに承認をとりたいと述べていた。実際確認したところ、質問会は開催され、その意義は薄れたと思う。日程のコントロールでうまくやろうとしているのでは、ともとれてしまう。

事務局：前回からこのような早さで開催した理由としては、まず、7月の中盤に企画の登録を受け付ける会がある。事務局と企画出展者が直接やり取りをする場である。それまでに事務局としても京大生に対して説明する資料等を用意する必要がある。そのような実務的都合から本日当該レジュメを提案した次第である。

A：言っていることは理解できるが、規制の文言の中に企画出展時と同時に、という文言はない。企画出展までをしておいて、全学実行委員会の議論を待ったうえで、9月か10月くらいまでに承認を取れば申請を受け付ける期間は確保できるのではないかと。今回実質的な変更点が多いので、多数の質問を予定している。参加されている方も多数質問を予定されていると思う。それを受けてもなお、今回承認がされなければ外部団体との連携を一切認めないというような姿勢でいることは、実務的都合のみで説明ができないのではないかと。

事務局：本規程について部分的に承認が取られれば、確実に企画出展者の方に規程について説明し、そのような行為をする予定があるか確認をすることになる。実際にこのような規定を確認するのが可能になるのは7月中盤の登録会になる。

A：ここに関して議論を継続しても時間を浪費するだけなので一旦ほかの質問に移る。あくまで防がなければならないのは、11月祭への介入という理解。しかしながら、今回の規制を読む限り、あくまで企画出展者の行う行為に対する規制に終止しているように思われる。そもそも外部との連携行為に申請を求めて、それに事務局が対応するという形を取ることで、京大生の自主的・主体的活動を確保できる、という認識か。

事務局：本規定に定めているのは京大生の自主性・主体性に関してのもの。京大生の自主的・主体的活動を可能な限り保証できると考えている。外部団体の介入に繋がる可能性があるものを確認するためのものである。実際に関わるのは企画出展者である。

A：前回は議論になったが、当該外部団体との関わりを持つ行為に対する規制と、行為に対する規制を設ける必要があるという認識。要は、規制をかける範囲の絞り込みと、それによって11月祭全体に対して起こす影響に対する絞り込みの両方が必要という話があったように記憶している。私もその旨先ほどから強調している。典型的に挙げられている行為がそのような行為に当たることは理解しているが、そのような行為を受けていて、結果的に11月祭に対して重大な影響を及ぼすこと、外部団体が利益を得ることがないのに、規制をかけてしまうことは、それは必要以上の規制となってしまいうように思うが、その点の見解を聞きたい。

事務局：介入の方の絞り込みについて、明示はしていないが、それに関する認識としては、レジュメの4.1.「回答における判断基準」にて、挙げているという認識である。（レジュメ当該箇所読み上げ）

A：しかしながら、連携行為の定義自体には行為に対する規制を含めない意図という認識で良いか。

事務局：そのような認識である。

A：質問を続ける。2.1「提供について」から2.3「顕示について」について、全般的な質問になるが、提供・招聘・顕示について、それぞれに除く行為を提示している。除く行為に当たるかどうかは、各企画出展者が判断するという理解で良いか。

事務局：11月祭事務局が定義するものに該当するかについて、判断主体は企画出展者となる。

ただ、企画出展の段階、登録の段階でメール等で随時質問を受け付け、それが規制に該当するかどうかを適宜こちらで相談に応じさせていただこうと考えている。

A：懸念点は、除く行為を明確化しているように見えて、原則として、という例外の例外のような書き方をしている。原則があるということは例外があるだろう、ということで、該当すると思って企画出展者は申請しなかった。しかし、原則に外れているから、というかたちで、後から、企画が終わってから制裁を行うようなことになりかねない。原則という文言を外して、そもそもそのような類型にあたらぬというような記述にしたほうが良いのではないか。企画出展者からしたら不意打ちに当たるだろうという懸念がある。原則という文言について、取り除いたほうが良いのではないか。

事務局：出展者側の観点からは、そのような懸念点もあると思う。2.1.「提供について」、2.3.「顕示について」の「原則として」は、本規程においては削除する。

B：疑問点を尋ねる。Aの問題点のレジュメにあがっている事例を参照すると、2.1.「提供について」の金銭の授受について、摘発できないと思うが、金銭の授受だけ受け、11月祭期間における外部団体へのリターンはないが、それ以外の部分でなにか利益を得ている、というような場合はどうするのか。

事務局：このような事例に関しては事務局で何か感知して判断することは、現実問題としては難しい。実際に11月祭期間当日において、どのような見返りがあるかどうかは重要であるというように事務局としては認識している。

B：気になったのは、事例としては掲示等に当たるものばかりである点である。金銭の授受というのはどうやってわかるものなのか。

事務局：金銭の授受に関して、基本的には金銭的援助を受けていると判断した場合にのみ、申請していただく、ということ以外には難しいのではないかと考えている。

B：承知した。

A：細かい話にはなるが、2.1.内の「技術知識を提供する行為」について。昨年度や前回提案された援助行為の類型だと理解している。その中で気になるのが、一時性とか軽微性といった

文言。大学の教職員のところ、これは京都大学の教職員なのか、一般に広く教職員なのか、もう少し詳しく見解を聞きたい。

事務局：まず、一時性に関しては申請者と事務局の中で、およそ一時的・軽微的である、また見返りとしてなにか求められているわけではない、という結論に至った場合には申請が必要な行為に当たらないと判断する。2点目の大学の教職員の部分に関しては京大生が日常的に関わる教職員のこと。京都大学の研究室やゼミ活動に関わる教職員は、必ずしも京都大学の教職員であるとは限らないと考えている。

A：「申請者と事務局の中で、およそ一時的・軽微的である、また見返りとしてなにか求められているわけではない」という結論に至らない場合には申請が必要となる、ということになる。申請の可否に関する相談の必要があるという理解をしている。例えば、大学生や近所の方に軽トラを借りて、じゃあガソリン代だけは払って、というようなことになる場合。それは対価、謝礼となる。このようなことを想定しているようだが、先ほどの事務局の回答を踏まえると、類型的な判断の想定ではなく、程度問題として低いというような言い方で、かつ相談が必要だという感じであったが、改めて見解を伺ってよいか。

事務局：一時性・軽微性について。申請者の方の中でおよそ一般的、社会的文脈的ににただの取引に当たると申請者が判定した場合は、除く。目安として一次性、軽微性を挙げている、という認識であり、線引きが難しいところはあると考えている。

A：最終的には質問を受け、かつそれらをまとめるようなFAQが作成されるだろうと考えているので、この点については一旦以上にする。2.3.「顕示について」について。企画内容を構成する要素として、構成されるコンテンツの展示行為から除くものだが、「外部団体から直接的な要望や対価（金銭や物品等）を受けている場合。」について、一般的に、特定のアニメなどがガイドラインを用意していることは多い。法律上では著作権者が主体的に判断できるが、趣味活動に関してはこのようにしてほしい、という規程がある場合がある。そういうようなガイドラインの遵守において、個別相談や事前相談が必要な場合、問い合わせの結果として条件が返ってくる場合がある。その場合、その条件がお金の場合には多くはないと思うが、直接的な要望があるととれると思う。外部団体のガイドラインと本規程の関係性を伺いたい。

事務局：例に挙げていただいたガイドライン等については、11月祭や本規程の文脈で判断する。外部団体から要望を受けることを制限することはできない。要望が11月祭の会場などで実際どのような形で現れるか、という点において11月祭事務局は判断をしたい

と考えている。

A：ただ結局そうなるかと最初に申し上げた通り、出展者としては除く行為に当たると解釈していたが、蓋を開けてみればそうではなかった、という例がありえる、リスクがあると思う。制裁を加える等する場合は企画出展者の故意または重過失を求める、ということなので、よほどうっかりしている場合でなければ事後的な制裁を加えるつもりがないという認識であれば問題がないと思うが、その辺りを確認したい。

事務局：今提示していただいた例であれば、結果的な程度による、とは言えるが、制裁を加えることはあまり想定していない。この事例に限らないことであるが、規定の例外、穴をつく行為について、個別に、特殊なものにすべて対応できるものだとは考えていない。結果的に個別的に判断することになる。

A：濫用的に罰則を加えることがない、と表明したと今の回答を解釈しておく。2.3.の「特定の外部団体の直接的な宣伝または販売促進を目的とする場合」について、ほとんどの行為はこれに当てはまらないのではないかと思う。当然そのような有志でA同好会と言うものでは、広く共感を求めて、閲覧・購買等を求めることになると思う。「直接的」の言葉の意味によってはかなり広く捉えられてしまうのではないか。この言葉の意味の解説を願いたい。

事務局：ここで「この限りではない」のところについては、コンテンツの宣伝や販促、というより、そのコンテンツの制作元企業等の外部団体の宣伝や販促、という認識である。

A：概ね中心的な懸念は無くなった。濫用的に適用しない、というところは明文化を願いたい。形式的な不備だと思うが、「5.2. 回答の再開」のところの解説を願いたい。

事務局：恐らく、レジュメの方の不備だと思われる。以下の文言を追記する。

「当該連携行為に関する変更、追加、または取り消しに伴い、11月祭事務局は必要に応じて再度、申請内容への回答を行う。回答の基準や回答期限は、原則として最初の申請と同様とする。」

A：あと2点。6ページ目の「(措置) 厳重注意、当該連携行為に関する内容の変更または停止、保証金の没収、今年度の企画出展停止、次年度以降の企画出展停止」とあるが、この件に限らずではあるが、保証金の没収であったり、出展の停止を行った件数がどの程度であるかを確認したい。

事務局：企画出展の停止に関して。全学実行委員会に提起しているものが全てであり、昨年度は0件であった。保証金の没収に関して、昨年度は酒類の規制で一部違反をした企画について、1、2件。酒類以外であると、大学の設備を破損してしまった企画に対して、一部または全部の没収を、弁償費用の補填を目的にしたものが2件ほど。その場で行っているものがほとんどであるため、嚴重注意は数えていない。

A：企画出展に関してはミスコンがあったと思う。後ほど訂正いただければと思う。本規程の適用にあたって、どの程度だったら嚴重注意で、どの程度だったら保証金没収で、と類型化することは難しいと認識しているため、そこは事務局の裁量が広く渡ると思う。他の規制違反と同様に適用されることを望む。最後、先例集・事例集について。昨年規制と異なると思うが、昨年の規制と被る点が多いので、先例集の公開などを進めていただきたい。また、企画相談会等で受けた質問については随時ホームページ等で公開されることを望む。以上について、事務局の見解を伺いたい。

事務局：ミスコンに関しては、企画出展の停止ではなく取り消しとなっている。事務局が行った制裁には含まれないと認識している。措置の適用についてはそのように行う。先例集の公開について、受けた相談等については積極的に企画出展者に対して公開する。先例集は、本規制の運用が2年目であり、その先例集だけを見て出展者が判断をしてしまうことを懸念している。ホームページ等での公開については事例が少ないことを踏まえ、事例が蓄積し、それに伴って事務局の判断も蓄積してからの公開が望ましいと考えている。

A：ミスコンに関しては認識の齟齬があったと思うが、恐らくそうだろう。ホームページ等での公開についても、趣旨を理解した。私からの当面の質問は以上とする。

C：2.1.について一点質問。文言の方、「提供とは外部団体から金銭、物品、技術・知識等の提供を受ける行為、（以下略）」とあるが、技術・知識の部分が気になる。外部団体から知識を受けることによって、出展者によってはむしろ良い影響を及ぼす面があると考えている。見返りを求められて提供を受けることはもちろん制限されるべきことではあるが、特に、見返りもなしに技術・知識を提供される例について、特に規定する必要はないのではないかとと思うが、見解を伺いたい。

事務局：確におっしゃる通り、技術・知識の提供によって発生する企画出展者へのメリットも存在する。ただし、本規程でできる限り防ぎたいのは、何らかの提供を受ける見返りとして、11月祭の会場において、広告をつけるような例。結果的に広報物などが出

うる経路として挙げている。他の大学の学祭ので事例等がある。技術の指導等を援助の一部として行っている企業が存在することを踏まえ、このような記述とした。

C：広報物が出る場合は、2.3.において規制をかけられるのではないか。

事務局：確かに技術知識について見返りがあれば該当するが、こちらの意図としては、技術・知識に規制をかけることよりも、こちらが想定している見返りというものを出展者の方に齟齬なく伝えることを目的をしている。文言の削除を求める、ということか。

C：2.1.の技術知識と言う文言がある必要はないのではないか、という意見である。

事務局：先ほどの回答に追加する。見返りに広報物を求められていない場合にも、規定で排除したいと考えているものに該当する可能性があると考えている。技術・知識を外部団体側から提供するから、企画内容をこうしてくれ、というような事例もある懸念から、事務局としては技術・知識も明記した方が良いと考えている。

C：2.1.の記載について、特に見返りを求める場合、求めない場合両方が該当するというところか聞きたい。また、対価がない場合については、申請をしてもらうが、許可を出すという認識で良いか。

事務局：基本的のそのような認識である。対価がない場合、かつ「以下に除く」としているものに該当する場合は、申請の対象外とする認識である。

C：以下に除く、に該当するのは、「個人的な企画出展者の個人的な関係に基づいて友人・知人等から受ける、（以下略）」の部分であるが、この文章に基づくと、身内などから受ける、とあるが企業等の団体からの提供ではない場合や、友人・知人等でない個人からの提供である場合は申請の必要がないということか。

事務局：除くというところで重点を置いているのは、提供元が団体か個人かというよりかは、影響が一時的または軽微であるかというところであるという部分だが、概ねおっしゃる通りである。

C：承知した。具体例をあげるなり、もう少し詳しい書き方をしていただかないと、混乱が生じてしまうのではないか。すべての個人が入ってしまうのに対して、後半では、「企画出展者の個人的な関係に基づいて友人・知人等」が除かれるとされている。前半の表現を変更する

など、わかりやすい表現にしていただかないと混乱が生まれてしまうのではないかと思う。

事務局：ここで挙げている個人や友人・知人等に関しては、最初に広範囲な定義を置いて、その後申請の対象外とする例外を書いているという認識。11月祭事務局としては大きな変更を加える必要性はないと考えている。また、全体的にそもそも防ぎたいものが曖昧なものであるのに対して、例外のない規程を作ることが難しい部分もある。全体的にその防ぎたいものが主体性などという曖昧なものなのでこの文言に関しては11月祭事務局の意向をお伝えしたいという考えではある。もしなにか、このような文言にすればより明確になる、という提案があれば願いたい。

C：全体の定義としては変えられないことは理解した。そうしたら、例の部分に技術や知識なども含まれるということを明記していただければと思う。

事務局：そのように記載する。

A：全く違うところの質問であるが、外部団体とのつながりで自主性・主体性が損なわれていることの判断について、例えば、損なわれやすい形態として、大企業のスポンサーを付けるようなものが想定される。損なわれにくい類型としては、近所の定食屋から協力を受けるようなものが挙げられると思う。判断基準のところ、当該外部団体と企画出展者/京都大学との平常時の繋がりの弱さがあればあるほど自主性・主体性を損なう可能性が高い、と類型化できるようにも思う。事務局の見解を聞きたい。

事務局：判断基準として平常時のつながりがあることもある。しかし、こういった規定を設けて申請をお願いする以上、こちらが関知していないものが当日判明すると、企画の出展に影響が出てしまうため、申請はいただきたいと考えている。しかしながら、判断基準として、そのようなものは考慮する。

A：「個別に判断する」という表現をしているので良いとは思いますが。判断基準の「・」以降の書き方について、強いて判断するものではない。基準は以下のものとする、の部分について修正を提案したい。（修正案）「以下に示す判断基準をもとに企画の主体たる学生の自主性・主体性または11月祭全体の自主性・主体性が損なわれていないかを判断する。ただしこれらは他の判断基準を持ち出すことを妨げるものではない。」

なぜこのような修正を提案したかという点、列挙しているものは考慮要素であるにも関わらず、すべてを満たして初めて許可を生み出している、というようにも捉えられる。あくまで

考慮要素で、0・100の判断をしたいのではない、となるのであれば、このような記述にした方が良いのではないかと考えている。事務局の見解を伺いたい。

事務局：提案していただいた文言の変更をしたい。0・100の判断をしたいわけではないため、背景等についても認識の相違はない。レジュメの文言について、4.3.1.「申請内容が「4.1. 回答における判断基準」に照らし合わせて、それらを総合的に満たすと判断される場合」に修正する。

A：議決を取る前に修正したものを前に出してもらって、かつ、修正前のレジュメと決議を取ったレジュメをホームページに示していただきたい。修正箇所が多岐かつ複雑にわたるためである。その辺りの配慮を願いたい、議長の采配にお任せしたい。

委員長：変更箇所については個人的にメモを取っていたので、そちらは後で触れようと考えている。提案する形を望むのであれば、事務局のほうでまた、同時進行が可能であれば、一度次の議事に移り、その間に修正作業をお願いして、後で承認を取る形としたい。

事務局：そのようにする。

委員長：他に修正を求める意見等はあるか。ないようなので、私から変更点の確認を行う。

- ・ p.1 2.1. 提供について 5行目 「原則」の文言を削除（変更の仕方は一任する。）
- ・ p.2 「企画出展者の個人的な関係に基づいて友人・知人等から受ける、一時的または軽微な物品の貸与や人員の提供行為(例:一時的な荷物運搬の補助、軽微な物品贈与等)。」 技術・知識を明確に含めるように修正
- ・ p.2 2.3. 顕示について 4行目 「原則」の文言を削除（変更の仕方は一任する。）
- ・ p.3 4.1. 回答における判断基準 Aからの提案のとおり変更
「以下に示す判断基準をもとに企画の主体たる学生の自主性・主体性または11月祭全体の自主性・主体性が損なわれていないかを判断する。ただしこれらは他の判断基準を持ち出すことを妨げるものではない。」
- ・ p.4 4.3.1. 申請を受理する場合 「そのすべて」の文言を「それらを総合的に」等に変更
- ・ p.4 4.3.2. 申請を受理しない場合 1文目 同様に「総合的に」等に変更
- ・ p.5 5.2. 回答の再開 抜けている文言を追加
「当該連携行為に関する変更、追加、または取り消しに伴い、11月祭事務局は必要に応じて再度、申請内容への回答を行う。回答の基準や回答期限は、

原則として最初の申請と同様とする。」

委員長：私として把握している変更点は以上である。参加者の方から抜けている変更点の確認等はないか。ないようなので、同時進行で作業が可能であるということなので、事務局は以上7点を修正していただきたい。また、Aからあったとおり、変更前の文言についても保存し、後日HPなどに上げる際は、変更前変更後の掲示をお願いしたい。

委員長：本議題については一旦保留とし、Aからの提案「全学実行委員会の透明化に関する提案(2)」のレジュメに移る。Aは説明を願う。

A：「全学実行委員会の透明化に関する提案(2)」の説明を行う。(レジュメ読み上げ)

事務局：(1)の図について。ご提示に感謝している。中間実等に確認をし、また、あとは環境対策委員会を載せるなどし、ホームページに掲載する。議事録について、担当者と確認した結果、議事録を載せることは可能である。ただし令和元年以前は紙媒体で議事録を取っていたため、可能な限りとなる。提案があったように、公開可能ではある旨は記載したいと考えている。読みずらさに関して、文字の大きさやアスペクト比は調整しようとは考えている。広報の担当者に確認を取ったところ、広報内容によって情報設計を分けており、あえて現在のような形式とすることで目を引くことができるのではないかと考えている、とのことだった。

A：補足。議事録の他に資料も載せていただきたい。紙媒体については、スキャン等できると思う。令和2年以降はデータが用意できるということであれば、可能な限りすぐに公開を願いたい。ただし、情報の掲載方法等については、分かりやすさなど事務局側にノウハウがあると思うので、一任したい。(3)(b)について、ホームページに詳細を流すとして、今のTwitterを見る限り、Wordファイルをべた張りしていると思う。ここに関しては工夫の余地があるかと思う。わかりやすさを重視していただきたいと考えている。質問を追加する。事務局で、全学実行委員会の資料がどれくらい残っているか教えていただきたい。

事務局：資料の掲載については承知した。紙媒体についても承知した。紙媒体であるというよりは、散逸気味であるということが問題である。2000年代初頭までに関しては、部分的に残っている、という状態である。

D：(1)、(2)に反対及び懸念を述べる。

(1)について、前回も意見を表明したとおり、事実として確定する文面のみの掲載のほうが望

ましいと考えている。とくに具体的に示していただいた図自体に関しても誤解を与えるような部分があるのではないかと思う。具体的には、全学実の下に11月祭事務局と中間実を記載しているが、これでは全学実に所属するのがこれら二つのみのように捉えられてしまう可能性がある。全学実は11月祭への参加意思を有するすべての人に開かれているため、書き方を工夫する必要等あると思う。また、中間実は学部を代表する存在ではあるものの、学部によっては中間実に属していないものもある。環境対策委員会など、それぞれ公的な立場で参加している組織もある。そこで中間実のみ明記していることに違和感がある。また、中間実がどのような組織であるかの記載がなければ、パッと見た京大生はわからないと思う。では中間実に関する説明を載せるとすると、逐一中間実に対して参加の形態等を確認する必要が生じてしまうと考えている。図示することに対して、絶対の反対を表明するものではないが、分かりやすくなる面、解釈に幅が持たれてしまうことに懸念がある。そのあたりがうまく解決されるような示し方であれば反対するものではない。このぐらいの図の示し方では、先述のような懸念が出てくるため、納得できるものではない。広範な参加者が含まれるような書き方をするのであれば、図示意味が薄くなるようなことも考えている。そうであれば、前回も言ったように、明言できるもののみを文言で示すほうがよい。

- ・「事務局は全学実から事務を委託されている」
- ・「全学実行委員会が11月祭に参加する意思を有するすべての人に開かれている」
- ・「他の学部祭とは協力関係である」

ということは事実であるということは、おそらく、図よりも文章で示したほうが齟齬が生まれないと思う。

(2)について。過去の資料をHP上に公開してアクセスをしやすいということであると思うが、例えば、議事録等の資料は公開されていることであると思うが、そうなったのは近年であって、それ以前の議事録・資料等はHP上で公開されていない。その了解のもとに全学実には議事録・資料等を作成しており、当時の全学実参加者からインターネット上で公開することの合意を得ていない。現在も、パスワード設定など了承を得ているものだと思う。その了解が得られていない議事録・資料等をインターネット上で掲載することには懸念がある。大学・学部等への意見や個人情報等が記載されている可能性が高いものであると思う。それをすべて調べて掲載することも可能であるが、そういったものをインターネット上に公開することに懸念がある。どこまで了承が得られているか、というと、事務局に直接尋ねてアクセスする分については公開の了承が得られていると考えている。資料にアクセス出来ないというわけではないので、そのような形式が穏便であると思う。近年インターネット上で公開することの了承が取られている分については、その了承の範囲内において公開することは問題ないと考えている。

A：Dについて同意できる部分と異議がある部分があった。

(1)について、なぜ図式化をするべきかという意見かという、そもそも、事務局員の方がどうかはわからないが、11月祭の最高意思決定機関を事務局であると誤認している人は多いと思う。全学実行委員会の存在、場が開かれていることを理解するとなると、まず知ることに対してハードルがある。そのことを示すために最大限の努力を払う必要があると考えている。そうでなければ、全学実行委員会という場を設けている意味が薄らいでしまうと思う。文字にしる図示にしる、我々全学実行委員会の立場を分かりやすく提示することは責任としてあると考えている。もちろんDの懸念については理解はできる。中間実の3文字をいれることを求めている、ということではなく、全学実行委員会が最高意思決定機関であって、あらゆる組織や11月祭への参加意思を有するすべての人が参加できる場であることを、わかりやすく示すことが、私としては必要だと考えている。中間実や環境対策委員会、その他11月祭内部の団体が複雑な経緯を以て連綿と続いてきたことは重々承知している。あくまで、各ステークホルダーを可視化し、全学実行委員会が最高意思決定機関であること、参加する意思があるものすべてが参加できることを分かりやすく示すことが、全学実行委員会の、参加の対象としているすべての京大生に対しての説明責任である。わかりやすい示し方として、図示がある。もちろん誤謬の危険などもあるが、そのリスクを踏まえてなお、文言にしる図示にしる一定程度捨象している部分はあるが、参加をしやすくすることについて全学実行委員会は責任を負うべき。やはり、図示はあったほうがいだろうと思っている。提案者としては概ねこのようなものを想定しているが、図示の方法には何らかの検討を進めることにご賛同願いたいと考えている。

(2)について、11月祭事務局BOXでの閲覧が慣習的に認められている、ということは初耳である。その点だけでも情報へのアクセスのコストが大きいことは分かるだろう。機微情報等が含まれているものやパスワードを付して公開することで合意を取っているものに関して、1年を過ぎたからとにかく公開しろ、というようなことではない。このような形で公開することの認識が取れていないといことはもっともだが、センシティブな内容を含めすべて公開することを求めているものではない、ということをご理解いただきたい。

D：(1)の図についてこの場で賛成することはできない。事務局などが具体的な案を提示し、今年の全学実としてどのような認識でいるかの合意を取ったうえで、掲載するほかないと考える。図示などをするのであれば、それぞれの団体に了承を取ったうえで、その上で具体的にこれを掲載しますと言う形で承認するのがいいと考える。その場で示された図がどのようなものであるかによって私の意見も変わってくると思う。

(2)についても、情報公開をしなくてはならない、という部分はあると思うが、その前提を踏まえるにしても、情報公開の中にも何十年という縛りがあるわけで、平成10、20年代等の資料を、たとえ事務局側が一定程度処理をするにしても、了承を取れていないものを公開するには浅いと思っている。了承が取れていない時期に、参加した記憶がある。その時の発

言が、事務局の判断によって公開する・しないを決定され、インターネット上に公開することには少し怖いところがある。私はまだいるので、確認をすれば良いが、もういない人もいるので、誰でも見れる状態でネットに公開するのは例え行政的な情報公開であっても難しいものを、学内では公的な団体ではあるが、1学生団体が行うのは難しいと考えている。付け加えるが、私の発言した、BOXにて閲覧を認めている、ということが事務局の認識と異なる場合は言っていたきたい。そう言ったことをするにあたってファイルか何かを持ってきて閲覧するのは個人情報載っているかもしれない。ほとんどは学内の人間への公開は問題ないと思うが、先に事務局が一定程度確認をしたうえで、閲覧した人による情報の利用については個人情報等の扱いに十分注意することを伝えることは徹底していただきたい。ネット上での公開は慎重であるべき。

委員長：Aの見解を伺ったうえで、事務局の見解を伺う形としたい。

A：事務局の見解を一度伺ったうえで、休憩を挟み私の見解を述べる形でもよいのではないか。

委員長：3時間程度経過したら休憩としたいと考えていた。

A：であれば委員長に一任したい。

委員長：Dはなにかあるか。

D：午前中までしか参加できない。意見に関してはここまで述べたとおりである。(3)については、事務局との折衝に一任する。

委員長：では議論を継続する。Aの見解を伺う。

A：慎重に、と言うことは重々承知している。事務局側に図示等の掲載の検討をお願いする、ということの承認を取る形をお願いしたい。インターネット上で公開していたものについては、公開が可能であると思う。それ以前のものについては、センシティブであったり、掲載をしたくないというのは理解できる。しかし、例えば、全学実行委員会の場として公開することへの整備を行っていくことの確認くらいは行っていただきたい。

(1)に戻る。

- ・「事務局は全学実から事務を委託されている」
- ・「全学実行委員会が11月祭に参加する意思を有するすべての人に開かれている」
- ・「他の学部祭とは協力関係である」

といった内容の掲載については、前回の全学実で承認が取られた中で行っていただくことができるかと思う。過年度のものについて、どのようなシステムが良いか、行政的な手続きについて、平成〇年にはこのような資料がある、というようなことを、見出しだけを掲載していただいて、実際必要となったら、希望するものが事務局に対して依頼をし、事務局として個別に判断したうえで、スキャンしたデータを渡すなり紙媒体を閲覧してもらうなりするのが良いのではないかと考えている。制度づくりは、提案内容と外れる部分であるので、そのような方向を考えているし、そうしたものは改めて提案するということは伝えておく。少なくとも、令和2年度以降のものはインターネット上に公開していただきたいと考えている。

委員長：これに関して参加者から意見等がなければ、一度事務局の見解を求めたい。

事務局：求められている見解について、事務局が求められた時に資料を公開できるか、ということか。

D：認識はそのとおりである。

事務局：それに関しては、個人情報等に配慮して公開をする、という認識である。

D：今のことに関して、決議内容の整理をしていただいた上で、内容面に関しては基本的に異論はない。

A：以下の内容での承認を求める。（変更点を赤字で記載。）

(1) 11月祭ホームページ内、「全学実行委員会」のページにおいて、全学実行委員会、事務局、11月祭の企画参加者(中間実行委員会として参加する学部自治会を含む)、来訪者、11月祭と同時に京都大学構内で実施される祭典の実行委員会で11月祭と密接な関係にあるもの(そのような性格を有する学部自治会等を含む)及び大学当局との関係性を図式化したものを事務局において改めて提案し、全学実行委員会において承認を得たうえで、冒頭に掲載すること。

(2) 過年度の議事録及び資料について、

(a) 令和2年度以降については、ホームページでの公開を継続すること。（全学実行委員会においてパスワードを付して公開することとしたものについては、パスワードを付した状態で公開するものとする。）

(b) ホームページでの公開をしないものについて、情報提供を行っている旨、全学実行委員会のページに明記すること。

(c) (b)については、事務局において保有している資料の一覧についてホームページに掲載す

るなど参加者が情報を得やすくする手段を講ずるとともに、実際の閲覧方法やマスキングなど過去の参加者のプライバシーや機微に関する情報に配慮するための具体的な措置については、別途全学実行委員会において議論を行うものとする。

(3)については同じ。

委員長：これに関して意見等あるか。ないようなので、上記のように変更を行ったうえで承認に移りたい。

事務局：概ね問題ないが、(1)について他団体と折衝の結果載せられない可能性もある。

A：他団体については、具体的な名前をあげるべきではないと考えるので、「他団体」としてしまっても良いのではないか。大学当局以外の団体について名前が出るのであれば確認は必要だろう。全学実行委員会内の組織については、全学実の場でそのような提案がなされることを事前に通知することで良いかと思う。個別の賛同を得ずとも公開できる部分はあると思う。事務局の合理的な配慮の元で行われることを望む。

委員長：提案内容について問題ないか。では、承認に移る。承認する方は、対面の方は拍手を、Meet参加者は挙手を願いたい。（全員拍手、挙手）全員の賛成が得られたため、承認とする。11月祭事務局の方で先ほどの変更したものを提示していただきたい。

事務局：（レジュメの提示・確認）

委員長：変更に対して意義や異議がある方はいるか。

A：「3. 事前申請について」において「事前にその内容を申請することを求める」とあり、「4.2. 回答期限」のところで、「11月祭事務局は申請を受領してから一週間程度で最初の回答を行う」とある。11月祭1週間前に申請することがあるかもしれない。

事務局：一週間前に申請されても実務的都合からどうしようもない。締めは11月祭の大体1ヶ月前を想定している。

A：承知した。

委員長：修正点に限らず、本レジュメについて意見等あるか。ないようなので承認に移る。賛成の方は、対面の方は拍手を、Meet参加者の方は挙手を願いたい。（全員拍手、挙

手) 全員の賛成が得られたため、承認とする。すべての議事が終了した。ここまでに関して意見等あるか。

A：事務局に対して質問。開催時期に関して、強く懸念がある。第二回から第三回までの期間、日曜日の朝など。第一回ですべての提案が通っているのであれば第一回と第二回の間があいても良いと思う。しかし、事務局として継続審議の議案があるにも関わらず、三週間以上間を空けて、にも関わらず第二回での承認を目指していた。事務スケジュールの都合とかがあるのであれば、ある程度は考えた上でやってほしい。最終的には委員長の判断となり、事務局からどこまで意見等言えるのかは分からないが、継続審議の議案がある場合においては、このスケジュール感であると、実質的な参加の機会という点でも欠いてる。これに関しては、委員長・事務局双方からの回答を求めたい。

委員長：第三回が第二回と時間が差し迫っていたことに関しては、私の予定によるところが大きい。来週時間があまり取れない一方で、事務局から登録会までの開催が必要とのことだったため、このようなスケジュールとなった。直前に予定が入ってしまうこともあるため、その点はご了承願いたい。

A：第一回と第二回の間が空いていることの方を問題視している。

委員長：こちらとしては、事務局側から予定を聞かれたので答えたまで。予定が空いてしまったことに関しては事務局側の都合が大きかったと思われるため、事務局側の見解を求めたい。

事務局：第一回と第二回が3週間程度空いたことに関して。前提として会場は文学部教室のほうが望ましく、そちらは2週間前までに予約が必要となるので、2週間は開けたい。なぜそれ以上空いてしまったかに関しては、担当者である私が京都にいない期間があり、2週間程度あけることも踏まえ、このようなスケジュール感となった。

A：担当者の都合もあり、それに対して事務方でない人間がとやかくいうことは避けたいところではある。しかし、実務上必要な議事案等があるのであれば、予定でも良いので次回の全学実開催のスケジュールの予定を組み提示したうえで議論を進めるなどしないと、今回のように日程が詰まってしまうことが再度生じてしまう可能性があると思う。その点ご配慮願いたい。

委員長：今回提起された資料に対してパスワードを付すことを希望する方はいるか。ないよう

なので、議事録の承認に移る。（議事録の確認）

委員長：議事録の承認に関して異議等あるか。ないようなので、議事録の承認に移る。承認する方は、対面の方は拍手を、Meet参加者の方は挙手を願いたい。（全員拍手、挙手）
全員の賛同が得られたため、承認とする。

委員長：このほか全般的に意見等ある方はいるか。ないようなので本日の第三回全学実行委員会はこれにて終了とする。長い間お疲れさまでした。